

令和4年8月31日

松阪市議会議長
山本芳敬 様

研修報告書

海住恒幸

研修会名称 第55回市町村議会議員研修会（Zoom開催）
日時 令和4年8月19日 午後1時30分から午後3時半
8月22日午前10時～午後3時半
場所 Zoomのため在宅

<テーマ及び講師>

- 8月19日 午後1時30分から午後3時半
第一講義 「危険！建設残土～土砂条例と法規制を求めて」
講師 畑明郎氏（滋賀環境問題研究所長、元大阪市立大学教授）
- 8月22日午前10時～午後3時半
第二講義 「自治体財政の基礎を押さえて『財政危機』の正体を知る」
講師 森裕之氏（立命館大学政策科学部教授）

<講義の概要と所感>

- 第一講義 「危険！建設残土～土砂条例と法規制を求めて」（講師 畑明郎氏）

【講義の概要】

京都府下や滋賀県大津市、三重県紀北町・尾鷲市などへの建設残土持ち込みの実態を事例ごとに紹介するものでした。また、全国の自治体で増えつつある土砂条例の制定状況にも触れました。

【所感】

この講義を受講した動機は、松阪市内でも問題となっている風力発電事業による建設残土について知識を持っておきたいことにあります。

そのヒントになったのはリニア中央新幹線工事に伴う残土が問題となっていることにありました。

講師は、首都圏や関西圏から三重県紀北町や尾鷲市に船で運ばれた建設残土の捨場など、近畿圏を中心に豊富な事例を把握しています。

こうした問題についての背景から法、条例の状況、解決策等を学んでおきたいと思ったのですが、今回は事例紹介に終始してしまっていたので不満の残る内容だったと思います。

●第二講義 「自治体財政の基礎を押さえて『財政危機』の正体を知る」(講師 森裕之氏)

【講義の概要】

午前と午後の2部構成。午前は自治体財政の基礎知識について、午後は財政危機の「正体」に迫ろうというものです。

<午前>

一般財源 地方税と地方交付税からなる。自治体にとって標準的な支出を支える財源と捉える。そのため、不足分は国が義務的に確保するものとして地方交付税が存在する。

特定財源 自治体の標準的な支出に対するプラスアルファとして国県補助金が存在するものと捉える。

<午後>

実質単年度収支の捉え方 年度によってプラス、マイナスと変動すべきもので、これが黒字であり続けることはおかしい。ただし、マイナスがずっと続くようだと財政破たんに向かうと読み取るべきであるとの説明があった。

【所感】

しばらく財政の勉強から遠ざかっていたので基本を復習したいと思って参加しました。財政学者それぞれの切り口から語られるものですが、森裕之教授の語られる内容は基本となる勘所を押さえつつ、他の学者にはない分析手法を紹介いただいたので、決算議会に向けた準備に生かしたいと考えています。

以上